

小倉教会を訪問しました

6月29日(木)は小倉教会におじゃましました。ひさびさの19時開始でしたので、どのくらい集まるか心配しておりましたが、11教会から42名の方がたをお迎えすることができました。

山本龍一郎牧師は奨励の中で、キリストの再臨への期待の高まりに比例して、人と人との間の課題も増し加えられていったことを、アナニアとサツピラのたとえ話から語ってくださいました。



礼拝の後、小倉教会の歴史、そして小倉教会の近況についてのお話を伺いました。特に興味深かったのは、昼食に使う野菜を自分たちで栽培しておられることです。主日の昼食の材料費を節約することで、世界祈禱献金に多く献金できるよう工夫しているのだそうです。

後半は11名の小倉教会からの参加者に加わっていただきながら、グループの分かち合いの時を持ちました。温かくもてなして下さった小倉教会の皆様方、ありがとうございます。



編集後記

枝光教会では、これまで教会員向けに行ってきた書道教室を、地域の方がたに開かれた書道教室として始めることになりました。道路に面したフェンスに参加を呼びかける看板が掲げられています。小さなことのように思いますが、枝光教会にとっては大きな決断であったことを思います。学びに来られる方が与えられるようお祈りください。



次回予告

巻頭言 松永正俊牧師(臼杵)
教会おじゃまします報告 苅田教会

7月・8月の予定

- 7月24日(月)連合役員会(シオン山)18時半
- 27日(木)教会おじゃまします苅田教会14時
- 30日(日)バプテスト大会(シオン山)15時半
- 31日(月)連合小羊会キャンプ(みさかの森)
- 8月14日(月)連合少年少女会夏の交流会
(シオン山)15日まで
- 8月15日(火)連合8・15集会(シオン山)13時
- 24日(木)全国壮年大会in天城山荘 26日まで
- 29日(火)宣教支援センター常任委員会
(東八幡)15時

宣教支援センターHP&Facebook

ニュースレターのバックナンバーを閲覧するにはパスワードが必要です。
HP: <http://bapkitaq.jimdo.com>
パスワード: kitag2015



連盟全国支援・地域協働プロジェクト バプテスト北九州地方連合 宣教支援センターニュース 22号



発行責任者: 山田雄次
発行所: 〒805-0015
北九州市八幡東区荒生田2-1-40
Tel&Fax: (093)651-6669
東八幡キリスト教会内
連合宣教支援センター事務局
発行日: 2017年7月26日



連載 視座を広げるために(1)

連合壮年会例会報告

大分地区神学生交流会に参加して

教会おじゃまします 小倉教会

写真: 大分地区神学生交流会

(7/1 大分教会)



私たちは独りではない

芦屋キリスト教会牧師 川端 恵実(芦屋)

芦屋教会は、2012年4月から約3年半にわたって無牧師の期間を過ごしました。どんどんと弱って行く教会を支えて下さったのは、近隣教会の先生方や宣教支援センターの先生方でした。齋藤弘司先生が「牧師を招聘したい」との教会の想いに寄り添い、様々にご助言下さったのです。そのことによって、2016年9月に牧師を招聘することが出来ました。これは何よりの大きな喜びとなりました。

2016年10月10日(月)にシオン山教会で行われた「連合まつり」へは、芦屋教会から9名で参加しました。奉仕では「子どもプログラム」を担当し、子どもたちと一緒にウォークラリーで「教会図鑑」を作り、ゲームをするなどして楽しみました。同時にバザーの出店にも試み、手作りのブルーベリー・マフィンや抹茶シフォン・ケーキ、ゴマなどを販売しました。その様子を見た近隣教会の方からは、「皆さんがワイワイとされているなんて、夢の様です」と言っていただきました。芦屋教会の皆が自然と笑顔になっていたのです。

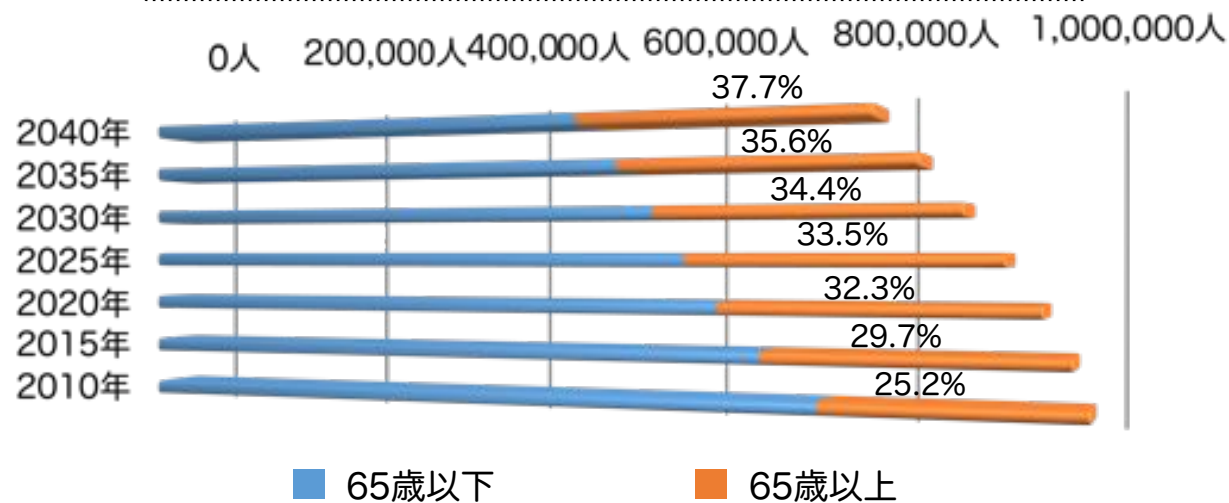
芦屋教会の教会員の方は、度々「宣教支援センターがなければ今の私たちはない」と口にされます。この言葉が表しているように、宣教支援センターからの支えは計り知れません。宣教支援センター運営委員会の報告で書かれている以上の働きを、山田雄次先生や齋藤先生が担われていることを私たちは良く知っています。宣教支援センターの先生方は芦屋教会の事柄を芦屋教会だけの事柄に留めず、連合の事柄として真剣に向き合い、祈り、助けて下さいます。それ故「私たち教会は決して独りではない」という思いで、伝道に励めるのです。

最後になりましたが、芦屋教会を祈りに覚え、支えて下さっているバプテスト北九州地方連合諸教会の皆様方に心から感謝を申し上げます。これからも、よろしくお願いたします。

連載 視座を広げるために(1)

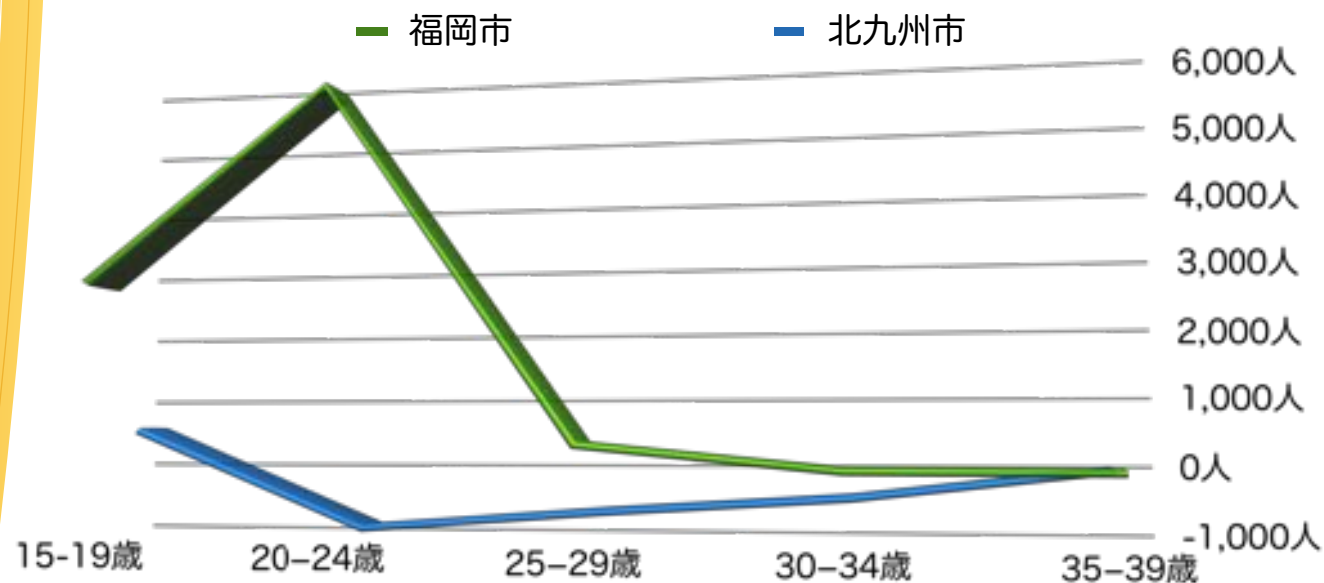
北九州市は高齢化率が政令指定都市の中でトップです。2015年現在、北九州市の総人口に占める65歳以上の割合は29.7%です。門司区や八幡東区では現時点で高齢化率が35%を超えています。2040年になりますと、北九州市の総人口は80万人を下回る推計が発表されています。

北九州市の総人口に占める高齢者の割合



さらに気がかりなのは、北九州市では20歳から39歳までの働き盛りの年代の市外転出が、北九州市への転入を大きく上回っているという傾向です。福岡市との比較することで、若年層の北九州市からの転出がいかに多いかが分かります。15歳から19歳までの年代は北九州市内に多くの高校・大学があるため、転入が市外転出を上回っています。ところが20歳から24歳の就職時期を迎えますと、市外転出が転入を大きく上回るようになります。転職期を迎える30歳代も、市外転出が転入を上回る傾向があります。(出典：『北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略』)

年齢階層別の人口移動(福岡市との比較)



諸教会にお伺いしますと「子ども達、若者達に教会に来てもらいたい」ということを相談されます。北九州市の統計を見る限り、大学を卒業して就職する時期や、転職を考える時期になると、福岡市などの大都市に転出してしまいう傾向が顕著に現れています。

子ども達や青年につながってもらい、将来的に教会を支えてもらうというキリスト教会の信仰継承モデルは、地方都市においてはもはや現実的ではないと言わざるを得ません。

これから大事なことは、地域に留まる可能性が高い40歳以上の人たちにいかにアプローチをするのか。お年寄りが安心して集うことのできる教会をいかに生み出していくのかということです。

次号では、具体的な取り組みについて、いくつかのアイデアをご紹介します。(齊藤弘司)

連合壮年会例会報告

7月15日(土)13時から若松教会にて連合壮年会例会が行われました。今回は西南学院大学神学部の神学専攻科をこの春に修了されて、別府国際教会の牧師として赴任された酒井朋宏牧師(推薦:名古屋教会)をお迎えして、開会礼拝の宣教をお願いしました。また高須教会の研修神学生として奉仕されている三上充神学生(推薦:金沢教会)に証しをお願いしました。

酒井牧師は4年前のイースター礼拝の時に名古屋教会で献身の証しをなされた時のことを振り返りながら、「名古屋教会の兄弟姉妹と共に私は献身するのだという思いを新たにしました」と語られ、退路を断って学ぶ神学生が、推薦教会からの祈りと励ましにどれだけ支えられているかを垣間見ることができました。また三上神学生からは、「学びの中で、自分の神学がたくさんある神学の一つに過ぎないことを教えられている」との謙虚な証しを聞くことができました。

後半は神学校献金推進についてのかち合いが持たれ、大分教会男性会長の村上信雄兄から、大分地区神学生交流会(7/1大分教会)の報告がありました。また別府国際教会の住田恭浩兄から、研修神学生を支えるための取り組みについての報告がありました。9教会から20名の参加でした。



大分地区神学生交流会に行ってきました

神学校週間に合わせて、今年も大分地区で神学生交流会が開かれました。

西南学院大学神学部からジャナク・カンデル神学生(推薦:福岡新生教会)と、西本詩生(にしもとしなる)神学生(推薦:恵泉教会)をお迎えして、それぞれの証しを伺いました。通らされてきた道はそれぞれ異なりますが、主に仕えたいという気持ちを強く感じる事ができた証しでした。

お二人が異口同音に話されていたことに、神学寮における朝礼拝があります。霊性をおろそかにしない姿勢は、教会に遣わされてからの伝道・牧会の働きに直結します。

後半はくじ引きでグループ分けをして、各グループ毎にお弁当をいただきながら、懇談の時を持ちました。最後に大分地区の3教会+豊前教会の牧師から近況報告を伺い、お祈りをして散会となりました。7教会から40名の参加でした。ホスト役として温かく迎えてくださった大分教会男性会の皆様方のお働きに感謝いたします。

